

品歯連盟 参議院選挙活動記

7月10日(日)施行の第24回参議院比例代表選挙で、品川歯科医師連盟推薦候補の山田宏氏は自民党公認候補者25名中第12位、149,833票で当選を果たすことができました。

この選挙で当連盟は3月から支援活動を開始し、5月には都歯連盟城西・城南ブロック合同決起大会に、6月には都歯連盟主催決起大会に積極的に参加して参りました。石原宏高衆議院議員、山内晃都議会議員、伊藤昌宏品川区議会議員にも毎回ご出席いただき、ほか多数の来賓がお見えで、会場は参加者が入口の外まで溢れるほどの熱気に包まれました。石井みどり参議院議員が「山田宏氏を当選させることが歯科医師会の使命です」と演説し、連盟理事10年目の私は、歯科医師連盟の役割はエンドレスだとあらためて感じました。

選挙期間終盤の7月6日、私は都歯連盟岡本専務理事と山田宏選挙カーに乗りました。当日は曇り空で蒸し暑く、午前11時、既に選挙カーに乗車していた都歯連盟荏原支部杉原専務理事と品川歯科医師会館でバトンタッチしました。山田宏候補はお見えになりませんが、運転手さんのほか、うぐいす嬢3名、岡本専務理事は後席に乗り、助

手席の私は最重要な席です。五反田駅方面へゆっくり走りだし、「山田宏がご挨拶に参りました。歯の健康が医療費削減に結び付く政策を進めて参りました。」、うぐいす嬢のはっきりした口調はさすがに上手いものだと思います。ソニー通りを行き、品歯会員の診療所前では各先生に呼びかけてご支援をお願いしました。品川区役所前では自民党区議の先生が、また石原宏高事務所からも声援を下さいました。沿道では通行人、道路工事の交通係員、清掃局職員にも挨拶し、お母さんの自転車に乗った女の子が小さな手を振ってくれて、街と一体感が生まれました。大井町から南大井へ品歯会員の診療所を巡り、私は大森駅で選挙カーを降りました。

「日本の医療は政治で決まる」と言われて久しく、37兆円を超える国民総医療費のうち7%しか割合を占めない歯科医療費の問題を考えると、高橋英登先生から出された大量の宿題を持ち帰り連日歯科医学を勉強したという山田宏参議院議員には、歯科医師会、歯科医師連盟とともに最良の歯科医療実現のための医療制度改革に向けて、今後の活躍を期待したいと思います。

(加藤 久直)